岡崎市地域公共交通総合連携計画策定の経緯

H1 8年度　○岡崎市交通政策会議（地域公共交通会議）設置(11月）

○名鉄バス㈱から市内1 4路線（補助対象路線）の廃止申出（2月）
→公的補助により維持・確保してきたバスネットワークの存続危機。

H1 9年度　○公共交通活性化総合プログラムの活用
・利用実態調査、・交通に関する市民 3万人アンケート、地域別ヒアリング調査
→当面、市が赤字を実質補てんすることでバス路線を存続。
数年をめどに、地域の特性を踏まえた交通体系・サービスに見直す。

○岡崎市総合交通政策の策定
→市の将来を見据えた交通政策の基本方針、アクションプラン

○地域公共交通活性化・再生法による協議会設置（3月）

H2 0年度　○岡崎市地域公共交通総合連携計画の策定(8月)
→バス等公共交通ネットワークの再編と公共交通利用に対する市民行動の変革

○岡崎市地域公共交通活性化・再生総合事業の実施 (～2 2年度)

岡崎市交通政策会議

平成２０年３月２５日設置
平成２０年８月２６日連携計画策定

概　要

鉄道や既存のバス路線と連携した利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けて、基幹となるバス路線設定のための実証運行や交通拠点間快速バスの実証運行、交通空白・不便地域における乗合タクシー等の実証運行を行い、さらには、公共交通情報の提供充実や公共交通利用に対する市民行動の変革を推進し、公共交通の活性化及び再生を図る。

○基幹バスの実証運行

矢作地区～市民病院、額田地区～市民病院

◇全市的な基幹バスネットワークの構築に向け、ネットワークの弱い市内東西軸における**基幹バス路線設定のための実証運行**を行う。

おかざきエクスプレス（ＪＲ岡崎～名鉄東岡崎～都市拠点）

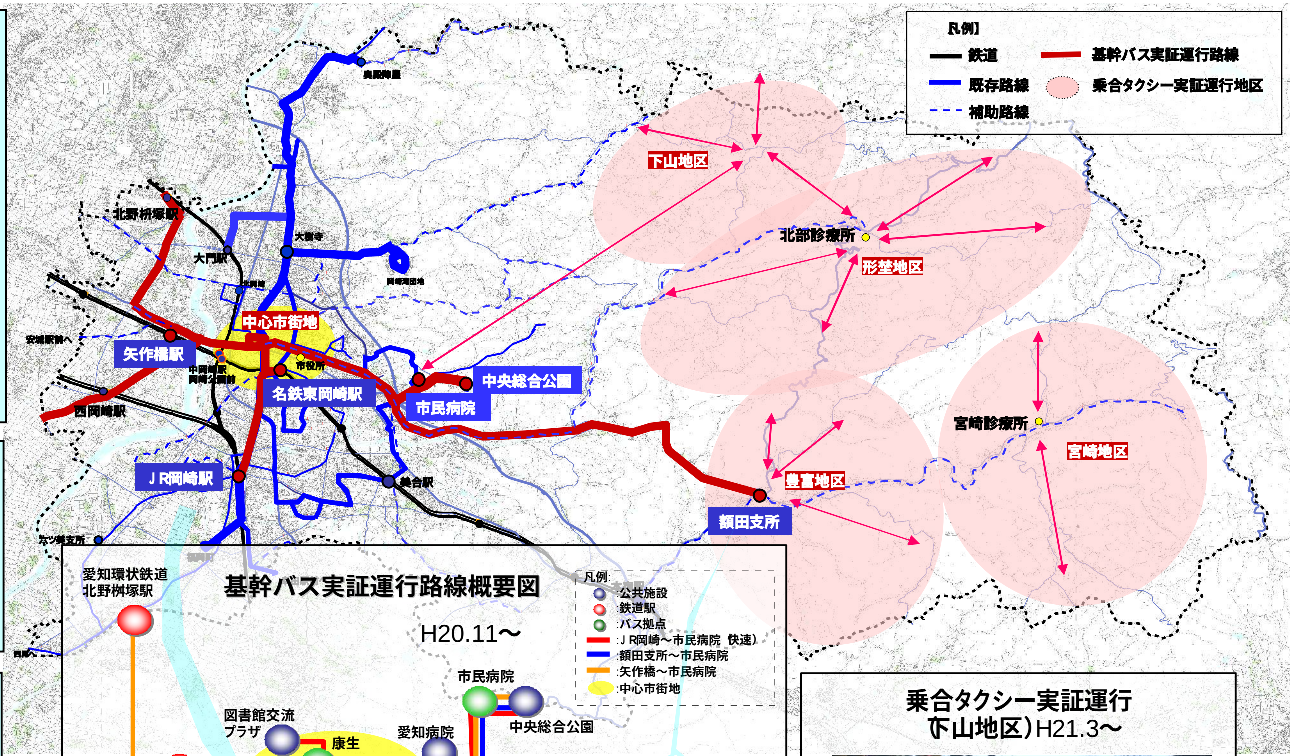
◇バス交通活性化実験として、移動需要の多い交通拠点（中心市街地）都市拠点間を結ぶ**快速バスの実証運行**を行う。

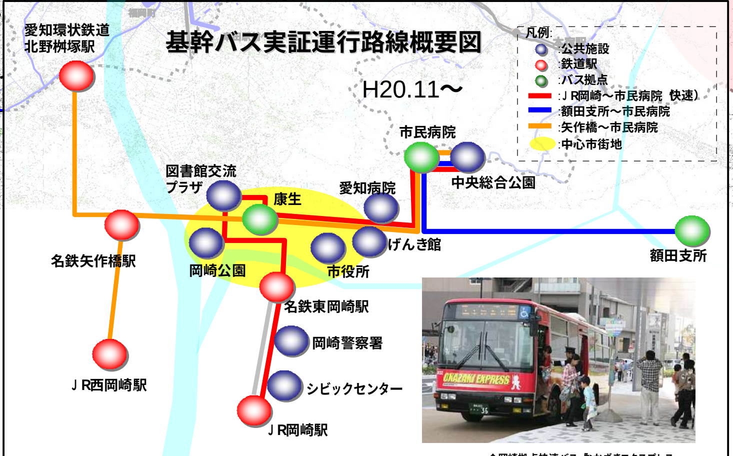
○乗合タクシー等の実証運行

◇市中山間部の下山地区及び宮崎・形埜・豊富地区において、住民の主体的・組織的な取り組みのもと、**乗合タクシーの実証運行**を行う。

○公共交通の利用促進策の実施

◇市内全図、路線図、系統情報、バス停位置、主要駅発着のバス運行情報、主要施設などをまとめた**公共交通マップを作成**し、バス等の利用促進を図る。
◇秋の市民まつりの２日間を「公共交通に親しむ日」として、**公共交通利用促進キャンペーンを実施**する。
◇市内事業所の通勤交通の実態を把握し、**事業所を対象としたモビリティマネジメント**を実施する。





↑岡崎拠点快速バス「おかざきエクスプレス」

乗合タクシー実証運行
（下山地区）H21.3～

事業の進捗状況

○基幹バスの実証運行

路線	矢作・市民病院線	額田支所・市民病院線	岡崎エクスプレス
運行開始日	H.20.11.1		
運行ルート 停留所	北野桝塚駅・西岡崎駅～矢作橋駅～中心市街地～市民病院～中央総合公園 25カ所	額田支所～市民病院～中央総合公園 27カ所	岡崎駅～東岡崎駅～中心市街地～市民病院～中央総合公園 14カ所
運行本数	北野桝塚系統８便、西岡崎系統４便（全日）	12便（平日）、11便（休日）	23便（平日・休日）
運賃（対キロ運賃）	矢作橋駅～市民病院 380円	額田支所～市民病院 500円	岡崎駅～市民病院 450円
運行事業者	名鉄バス㈱		
平均乗車人数	99人/日 （前年度比171%）	18人/日 （前年度比97%）	250人/日 （前年度比121%）

○乗合タクシー等の実証運行

路線	下山地区	形埜地区	宮崎地区（大雨河）	宮崎地区（千万町）	豊富地区
運行開始日	H21.3.2	H21.11.2	H21.12.1	H21.12.1	H22.3.1
運行日	月～金	月～金	月～金	月～金	月～金
運行ルート	地区内⇔市街地（日替り）	地区内（日替り）	地区内	地区内	地区内
運行本数	市街地6便、地区内2便	月・水・木4便、火・金5便	3～10月5便、11～2月4便	3～10月5便、11～2月4便	火・金5便、月・水・木3便
運賃	200・300・500円（小・中・高半額、未就学児無料）	300円（小・中・高半額、未就学児無料）	300円（中・高校生半額、小学生以下無料）	300円（中・高校生半額、小学生以下無料）	300円（中・高校生半額、小学生以下無料）
運行車両	ジャンボタクシー 乗車定員9人	ジャンボタクシー 乗車定員9人	小型バス 定員44人（座席19）	ジャンボタクシー 乗車定員9人	ジャンボタクシー 乗車定員9人
その他	フリー降車有	フリー乗降有	フリー乗降有 児童通学利用（H22.4～）	フリー乗降有 児童通学利用（H22.4～）	フリー乗降有 児童通学利用（H22.4～）
運行事業者	岡東運輸㈱	岡東運輸㈱	㈱西三交通	㈱西三交通	岡東運輸㈱
平均乗車人数	17人／日	4人／日	5人／日	4人／日	―

○公共交通の利用促進策の実施

◇公共交通マップ改訂版の発行

昨年度作成したバスマップに、バス路線の変更内容を反映させるとともに、バスの乗り方情報の追加など、アンケート結果等による改善を加え、改訂版35,000部を作成した。市役所・支所、観光案内所、コミュニティバス車内等で配布しているほか、エコ通勤トライアル参加者、公共交通に親しむ日来場者等へ配布した。

◇公共交通利用促進キャンペーンの実施

11月7日・8日の市民まつりにあわせ、交通事業者等と連携して小学生以下バス無料、バス1DAYフリー切符の発行、ギャラリーバスの運行、P＆R用ハイブリッドバスの運行、公共交通に親しむ日展などを実施した。

◇モビリティマネジメントの実施

岡崎商工会議所会員等の3,800事業所を対象として、8月に「通勤交通に関するアンケート調査」を実施した。11月にワンショットTFPによる「エコ通勤トライアル」を実施し、87事業所6,908人の参加があった。

事業を実施する上で苦労した点、工夫した点、頑張った点

■乗合タクシーの実証運行地区では、地域住民がバス検討組織を立ち上げ、検討し、行政がその取り組みをサポートし、運行計画をまとめた。住民はバス停標識の作成・設置、出発式の企画・実施等を行い、実証運行開始後も協議会を開催し、本格運行に向けた活動を行っている。下山地区では、地域の魅力を都市部住民に発信するために、乗合タクシーを活用して住民がボランティアガイドを務めるウォーキングツアーを開催している。宮崎地区と豊富地区では、平成22年4月からの小学校の統廃合により、児童の通学手段としても利用できる運行内容としている。

■通勤における実効性のあるモビリティ・マネジメントを進めて行く上で、本市では、これまで市内事業所の通勤実態等を把握していなかったため、岡崎商工会議所と連携して会員企業等3,800社に通勤交通実態調査を行い、各事業所従業員の通勤実態や事業所の通勤制度、勤務体系、自動車通勤抑制に対する方針、取組状況などを把握した。

ささゆりバスウォーキングツアー

事業の昨年からの改善点、具体的な成果、今後の課題

■基幹バスの実証運行については、主要駅と公共施設等を直接結び、主要バス停のみに停車する快速「岡崎エクスプレス」の運行により、今までの乗り継ぎによる時間的・経済的な負担が軽減され、市民や来街者の利便性が高まり、利用者が増加している。本格運行に向けて、通勤・通学需要への対応や主要バス停での他の路線との時間的競合の回避など相互補完について調整する必要がある。

■矢作・市民病院線は、平成21年4月から矢作地区の既存路線と再編し、矢作橋駅での乗継を解消し、北野桝塚駅・西岡崎駅～市民病院を直通運行としたことなどにより利用者数が増加している。額田支所・市民病院線は、利用状況を踏まえ平成21年10月から始発1便を減便し、ダイヤの見直し等を行った。これら市内東西軸を成す基幹バス路線は、多くの需要が見込めないもののネットワーク形成上不可欠な路線であり、乗合タクシーや既存路線等との乗継利便を高めるなど、高齢者等の通院・買物に使いやすいサービスに見直していくことが課題である。

■乗合タクシー等の実証運行については、運行経費の地域負担のあり方や負担割合の基準について検討を行ったが、本格運行に向けて、各地域において安定的な収入確保のための方策を具体化していくことが課題である。

■市民まつりと連携して実施した「公共交通に親しむ日」では、公共交通による来場案内と各種の公共交通利用の動機付けを行ったことで、市内路線バスの利用者が前週比で約1割増え、電車・バス（パーク＆バスライド含む）での来場者は全体の20%を超えた。イベントと公共交通利用キャンペーンの連携により、来場者の公共交通利用が促進されることがわかったことから、今後、様々な催事において公共交通が活用されるように、主催者や交通事業者等と連携を図っていくことが課題である。

■事業所を対象としたモビリティ・マネジメントでは、エコ通勤参加事業所における自動車通勤者の10%が通勤にバスを利用したことがわかった。今後は、特に公共交通による通勤が期待できるサービス水準の高いエリアに立地し、自動車通勤抑制に対して意欲的な事業所を対象に、モビリティ・マネジメントを効果的に展開していく必要がある。

形埜地区「乙川バス」

宮崎地区「めってこバス」